

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年 2月14日

江別市立対雁小学校

1 本年度の重点教育目標

自ら学び 高め合い ねばり強い子どもの育成

- 自己肯定感・自己有用感の醸成～自分のよさや可能性に気づく教育活動の推進～
 ○共感的な人間関係の育成～互いに認め合い、励まし合い、支え合う風土の醸成～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	1. 子どもたちは、進んでよく学び、よく考えている。	B	学年で教材研究を行い、本時のねらいを明確にした授業、子どもたちが「楽しい！わかった！」と実感できる授業を実践していく。また、本校の研究で取り組んでいる「自由進度学習」を通して、主体性を育む教育活動を推進していく。	A	A
	2. 子どもたちは、思いやりがあり、助け合っている。	A	授業や行事の取組の中で「協働的な学習」「互いの頑張りやよさを認め合う場面」を設定し、共感的な人間関係を育成していく。	A	A
	3. 子どもたちは、粘り強く、やり通している。	B	適切な目標を設定し、達成できるよう励ましや支援等の指導を積み重ねていくことで、子どもたちの自己指導力を育成していく。	A	A
	4. 子どもたちは、いつも元気で、たくましく育っている。	A	休み時間のグラウンドや体育館遊びの推奨していく。また、保健の授業を充実させ、健康な生活を送るための知識・技能を身に付けるとともに、保健日より「十分な睡眠、バランスのとれた食事、適度な運動」について家庭の協力を呼び掛けていく。	A	A
	5. 子どもたちは、自分や友達のを認め、何事にも粘り強く取り組み、学ぶ価値を実感している。	B	学校行事や清掃活動、学級の係活動、児童会活動等、特別活動を中心に、自他の頑張りを感じる機会を多く設定していく。	A	A
	6. 子どもたちは、基本的な知識や技能を身につけ、他と協力して課題解決に活用している。	A	3層（伸びしろ層、中間層、定着層）の子ども一人一人の学習状況に対応した個別最適な学びを実践していく。授業では、習熟の時間を確保し、知識・	A	A

			技能の定着と、獲得した知識技能を活用する場面を設定していく。補充的指導・学年内教科担任制や交流授業等の指導体制の工夫・改善を進める。		
	7. 子どもたちは、見通しをもって学び、考えを伝え合うことができる。	B	「既習事項や日常の経験を生かして考える」という考え方を身に付け、思考力を高める。また、目的を明確にして計画的に対話の場面を設定し、表現力の育成を図る。	A	A
教育課程・学習指導	8. 育成すべき資質・能力が、確実に身につく教育課程を編成する。	A	重点目標を踏まえたカリキュラム・マネジメントを機能させながら、各教科や活動で育成すべき資質・能力が確実に身につく教育課程を編成する。	A	A
	9. 一人一人の教育的ニーズに応じた支援方法の充実を図る。	A	特別支援教育コーディネータを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた、具体的で実践的な支援方法の充実を図る。	A	A
	10. 「対話」により他者の考えと価値交換を行う授業改革の推進を図る。	B	価値交換を図る ICT の有効活用と対話の場面を意図的計画的に設定していく。また、教員の ICT の活用スキル向上を図る実践的な研修を実施していく。	A	A
	11. 本に親しむ(朝読書等)、本で調べるなど、読書活動の充実を図る。	A	図書整備ボランティア、読み聞かせ隊、図書館司書と連携を図り、絵本の読み聞かせ、本で調べる学習など、読書活動の充実を図る。	A	A
	12. 考え議論する道徳の授業を要とした、道徳性の涵養を図る。	A	「自由と責任」「思いやり」「集団生活の充実」「生命の尊さ」を重点に、考え議論する道徳の授業を要とした、全教育活動を通じた道徳性の涵養を図る。	A	A
	13. 適切な学校行事の実施と振り返りを行い、自主的・実践的な集団活動の充実を図る。	A	学校行事では、「児童が個々の目標を設定する」「教師が、目標を達成できるように指導、支援する」「活動の振り返りの場面を設定し、次回の目標を設定する」取組を通して、自主的・実践的な集団活動の充実を図る	A	A
	生徒指導	14. 自己肯定感、自己有用感を高める生徒指導の充実を図る。	A	ホジティブ行動支援(努力や成長を積極的に認めていく指導)に全職員で取り組み、児童に自己肯定感・自己有用感を実感させる。	A
15. 問題行動の共通理解を図り、早期解決を図る。(いじめ対応を含む)		A	いじめの積極的な認知により「いじめを見逃さない」「嫌な思いをした児童に寄り添う指導」を全職員で行う。問題行動発生時は、事実関係を正確に把握し、指導の方向性を全教職員間、関係機関で共通理解を図り、迅速な対応により、早期解決を図る。	A	A

別紙2

健康 安全 教育	16. 危険を予知、回避し、「自分の命は自分で守る」力を育む。	A	実践的な避難訓練、防犯や薬物乱用防止、交通安全教室等を実施する。指導内容を家庭へ周知し、家庭と連携して、危機回避能力の育成を図る。	A	A
	17. すすんで運動・健康の増進に努める態度を育成する。	A	運動の楽しさを味わい、運動能力を高める体育授業、実態に即した体力向上プランの実施していく。また、体育の授業では、運動量の確保に努めていく。	A	A
小中 一貫	18. 小中一貫教育を推進する。	A	3校合同で教育課程部会等の5つの部会を設定し、中央中校区の目指す子ども像の実現に向けた具体的な取組を推進する。また、授業参観交流、中学校での体験学習等、小・小連携、小・中連携を一層積極的に推進していく。	A	A
	19. 子どもの様子を積極的に発信し、地域との共有を進める。	A	学校のホームページで、子どもの活動について積極的に発信していく。参観日や学習支援依頼等、保護者や地域の方が来校する機会を積極的に呼びかけていく。	A	A

【評価項目の設定、達成状況改善及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・達成状況がB評価の項目について、学校としての取組は十分に行われているが、次年度のさらなる改善への期待を込めて、適切な評価であると判断した。
- ・教職員の自己評価で「休み時間の使い方に、教師がもっと積極的に関わっていきたい」という反省があったが、実際には休み時間に先生方の余裕はないのではないかと思う。担任の先生の過度な負担とならないよう、学習サポーターなど、様々な方の協力も得ながら教育活動を進めていってほしい。
- ・ホームページが充実している。今後も継続していってほしい。
- ・学校の教育活動には、一つ一つに目的がある。そのことを保護者に丁寧に説明し理解を求めていくことで、学校教育への関心も一層高まっていくと思われる。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない